

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 第52回 北海道博物館大会 遠軽町で開催しました

7月4、5日の2日間、「地域の財（たから）と博物館」をテーマに北海道博物館大会をオホーツク管内遠軽町で開催しました。

大会初日は、ホテルサンシャインを会場に午前中の開会式を皮切りに、閉会式まで80名を超える大勢の方に参加をいただきました。

開会式後の総会では、議長に遠軽町教育委員会社会教育課の中村哲男課長が、副議長に旭川市博物館の南尚貴館長が選出され、役員改選を含む8項目の議案が滞りなく承認されました。その中で学芸職員部会を代表して富良野市博物館の澤田係長から「雑誌記事索引採録選定基準の改訂を求める運動」についての説明があり、今後の役員会で協議していくことが承認されました。

表彰式では、帯広美術館振興会（会長岩野洋一）様及び十勝の自然史研究会（代表藤山広武）様に石森会長から両代表に表彰状と記念品を授与いたしました。

午前の特別報告では、日本博物館協会の半田昌之専務理事から日本博物館協会の主要活動と最近の動向について、北海道教育庁文化財・博物館課の長沼孝課長からは本道の博物館に関する事業の推進についてのご報告をいただきました。また、午後の特別報告からは一般町民も参加し、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの佐々木利和特任教授から「民族共生の象徴となる空間」における博物館構想についてご紹介をいただきました。



シンポジウム

基調講演では、宇都宮大学地域連携教育研究センターの廣瀬隆人教授から「地域の財（たから）を活用する博物館の未来～市民・地域・ボランティア～」と題してのご講演をいただき、今後のボランティアとの関わり方や博物館のあり方について多くの示唆を与えていただきました。

シンポジウムでは、廣瀬教授のコーディネートのもと遠軽町立白滝小学校の宮田慶貴氏、斜里町立知床博物館の村上隆広氏、湧別町ふるさと館JRYの中島一之氏及び遠軽町ジオパーク推進課の熊谷誠氏の4名からの事例発表の後、地域の財（たから）を活用した今後の博物館の可能性について熱心な討議が行われました。

大会二日目は、丸瀬布地域及び白滝地域の施設を巡るバス見学会を約40名の参加により実施しました。

丸瀬布地域では、一年中蝶が飛び交う放蝶館のある「丸瀬布昆虫生態館」の見学と丸瀬布森林公園いこいの森園内に動態保存をしている北海道遺産の森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」に乗車し、童心に返りながらも貴重な体験をしていただきました。

白滝地域では、遠軽町役場白滝総合支所2階に一昨年7月にオープンし、国指定重要文化財「白滝遺跡群出土品」約千点を展示するなど質・量ともに日本一の黒曜石資料が立ち並ぶ「遠軽町埋蔵文化財センター」と同支所1階に昨年4月にオープンした「白滝ジオパーク交流センター」を見学し、いずれも地域の財を活用した施設等の見学会として有意義なものとなりました。

（遠軽町教育委員会社会教育課主幹 佐藤祐治）



北海道遺産「雨宮21号」



### JSTネットワーク形成地域型支援事業 札幌圏の科学系博物館と図書館の連携による 実物科学教育ネットワーク(CISEネット)の構築

2012年7月より北海道大学は、札幌周辺（札幌市・小樽市・石狩市・北広島市）の科学系博物館・図書館などの社会教育施設と連携し実物科学教育を進めるネットワーク（CISEネット）の構築を行っています。

具体的な事業としては、今まで北海道大学総合博物館が進めてきた「パラタクソノミスト養成講座」を地域の博物館に広げ、地域における人材の養成を行うための基盤作りを行っています。

また、連携施設の職員からなる4つ（ヒグマ・サケ・恐竜・セミ）のワーキンググループによって連携講座や教材の企画・開発を進めています。

「サイエンステーリング」は、ひとつの科学テーマについて複数の施設を巡ることで、各施設の専門性や特性を活かした学習活動を体験できる連携講座となっています。また、「トランクキット」は、テーマに沿った標本や展示物などの教具をコンパ

クトにまとめたもので、学校教育や自然観察会・科学イベントなどの社会教育における活用を目的に整備を進めています。

これら開発された教材は、地域の施設を通じて社会教育の現場で活用されるだけでなく、学校教育の現場における地域実物科学教育への活用が期待されています。



CISEネットで開発した教材の展示

(北海道大学総合博物館 学術研究員 菊田 融)



### 平成25年度研修会 「資料梱包の実際」

道南ブロック博物館施設等連絡協議会では、去る7月25日、森町公民館を会場に研修会を開催しました。

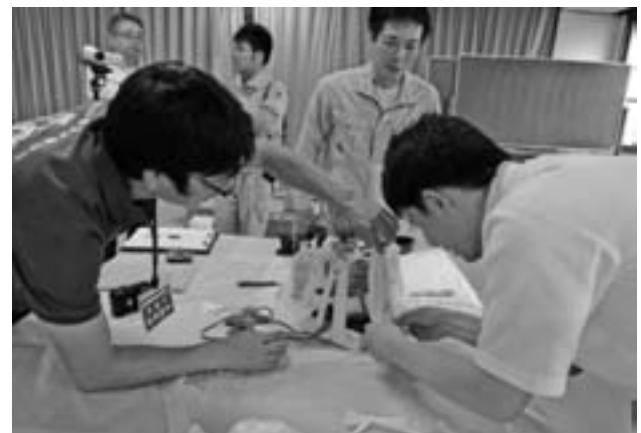
テーマは「資料梱包の実際」で、講師には美術梱包専門の業者をお招きし、我々が日常行っている梱包について、資料を用いた作業を見学しながら、留意すべき点や注意事項の解説を受けたあと、我々参加者も実習を行いました。

資料は、森町教育委員会から円筒土器と注口土器、八雲町教育委員会から木彫りの熊、江差町教育委員会から灌仏会の装束（寶冠）を提供いただきました。個々の資料の素材・形状の違いから、留意すべき細部は異なるものの、基本的な約束事として次の点を指摘されました。

- ・作業前に聞き取りをして、弱い所・留意点を把握してから取り進めること。
- ・弱い所を先に保護し、「置いて安定するか」を念頭に、凹凸の無い形に梱包する。
- ・引っ掛かる所を作らない（紙紐は横結び、綿布団を折り返した縁は資料のセンターから外す）。
- ・綿布団で包む、紐を掛けるなどの作業は2人1組で行い、補助者は弱い所・留意すべき所を支持する。

- ・弱い所には余計な力を加えない（保護した後、さらに綿布団を掛けたりしない）。
- ・外見から中身がわかるような梱包は失敗。

今回は、突起部や脆弱な箇所を保護してから、あるいは台や充填剤で安定させてから梱包しなければならない資料や、さらには大きさに合わせた箱を作らなければならない資料もあり、様々な梱包の要点を実地に見学出来る良い機会となりました。参加者からは、日々の業務にすぐ活用出来る興味深い内容だったとの声が多く聞かれ、有意義な研修でした。



灌仏会の装束(寶冠)での実習

(市立函館博物館 学芸員 小林 貢)





## 北海道開拓記念館リニューアル予告展 「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」を開催

道北地区では、北海道開拓記念館リニューアル予告展「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」を、平成25年9月7日（土）苫前町を皮切りに6施設（苫前町郷土資料館・考古資料館、小平町文化交流センター、礼文町町民活動総合センター、名寄市北国博物館、士別市生涯学習情報センターいぶき、オホーツクミュージアムえさし）で巡回開催いたします（各施設の開催日程については右図ポスターをご覧ください）。

平成27年春、北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターが統合して「北海道博物館」が誕生します。当巡回展は、北海道博物館の目指す姿やこれからの活動、新しい常設展示の内容を道内に広く紹介することを目的として、両施設が主催するものです。今年度は道北地区博物館等連絡協議会の後援もあって道北地区で開催されることとなりました。

展示会場では、「1 北海道120万年物語」、「2 アイヌ文化の世界」、「3 北海道らしさの秘密」、「4

わたしたちの時代へ」、「5 生き物たちの北海道」といった、新常設展示の各テーマを紹介するパネルを中心に、道指定有形文化財の江別市大麻3遺跡出土の板状土偶（複製）やアイヌ口承文芸の映像資料、近現代の生活資料などが展示されます。

また、各会場では開拓記念館学芸員による様々なテーマの普及事業を、一般向け講座・子供向け講座として予定しております。

展示観覧料・講座参加料はいずれも無料です。多くの方のご来場いただけますよう、またこの機会に道北地区の各館園にもお立ち寄りいただけますよう、お願い申し上げます。



リニューアル予告ポスター

（士別市立博物館 学芸員 森 久大）



## 苫小牧市美術博物館 企画展 「夢を形に～砂浜と原野にいだんだ時代～」

苫小牧市博物館は7月27日（土）に美術博物館としてリニューアルオープンし、今後とも地域に根ざした活動を展開してまいります。10月12日（土）から11月24日（日）までは苫小牧開港50周年記念企画展「夢を形に～砂浜と原野にいだんだ時代～」を開催いたします。江戸時代における交通の要衝、勇払を基点としてアイヌ民族や場所請負人が担っていた物流の歴史は、大正時代の地元民による勇払漁港築設計画、道庁技師林千秋の「勇払築港論」によって港湾の築設へと具体化されていきました。昭和に入っても自治体や企業、住民の熱望は耐えることなく、漁港、勇払原野開発に伴う工業港建設などの計画が持ちあがり、幾度かの変遷を経た後、昭和26（1951）年の起工そして同38（1963）年4月の開港へと結びついていきます。

展示会では開港50年の節目に際して、江戸時代に場所請負人によって奉納された船絵馬、昭和初期の港湾築設計画図、築港に使用された機械類などを紹介するとともに、世界最初の港湾築設記録

である志方写真工芸社の写真集「砂浜と原野にいだんだ時代」から貴重な写真およそ60点をパネル化して展示し、開港までの過程をたどります。併せて現在の港の役割を知る資料や港をテーマとした絵画作品や船舶模型を展示し、市民とともに歩んだ港の歴史を振り返ります。

苫小牧港はもしこの場所に港をつくったら、いかに便利であろうかという発想から生まれた港です。それゆえに開港に至るまでには、広漠とした砂浜と原野を掘り込むという今まで誰もがなし得なかったことに取り組む強い意志と当時の技術の粋を結集する必要がありました。現在の港は先人たちが見続けた夢が形となって実現したものであること。半世紀前の大事業が街の発展を支えていること。展示をご覧になる方に苫小牧および道史の転換点となった苫小牧港開港について理解を深めていただければ幸いです。



企画展ポスター

（苫小牧市美術博物館 学芸員 武田 正哉）



## 「平成25年度道東3管内博物館施設等 連絡協議会交流推進会議の開催について

道東3管内博物館施設等連絡協議会では加盟館の情報交流を目的に、毎年、交流推進会議を開催しています。交流推進会議は平成2年に第一回が開催され、途中、十勝沖地震の発生などで中止されたこともありましたが、今回で第23回目を迎えます。

本年度は10月24日(木)～25日(金)の日程で、弟子屈町の川湯エコミュージアムセンター「やすもつと」を会場に開催します。本年度のテーマは「外来生物と博物館」としました。

他地域から人為的に持ち込まれた外来種は、在来生態系のバランスを崩し、近年では農林業被害を始め経済活動に負の影響を与えることもあり、大きな社会問題になっています。道東地域においてもアライグマ、ウチダザリガニ、セイヨウオオマルハナバチを始め多数の外来種が確認され、在来の貴重な生態系への影響が懸念されています。そこで今回の研修会では外来種に関する研究・対策活動事例の報告を行い、博物館が外来種問題に

どのように関わっていくかを考え、議論する機会を作りたいと考えています。講師と発表内容は以下の通りです。

### 基調講演

「天然記念物春採湖のヒブナの生息地に異変!!」

針生 勤 氏 (釧路市生涯学習センター)

### 事例発表

「美幌町でのウチダザリガニ防除活動 ～地域の博物館にできること～」

町田 善康 氏 (美幌博物館)

「外来植物ハイコウリントンポポの現状と博物館での取り組み」

持田 誠 氏 (帯広百年記念館)

「樹洞を利用する動物達の危機? アライグマによる樹洞の利用」

外山 雅大 氏 (根室市歴史と自然の資料館)

また、会議終了後の懇親会や2日目はエクスカーションも予定しております。他管内からの参加も歓迎致しますので、要項等の送付希望は根室市歴史と自然の資料館(電話0153-25-3661)までお問い合わせください。

(根室市歴史と自然の資料館 学芸員 猪熊樹人)



## 紋別市立博物館 企画展「世界の昆虫大集合!」

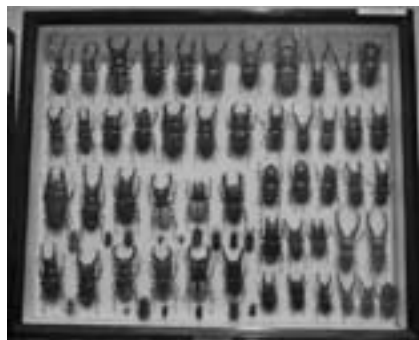
平成25年7月13日～8月18日にかけて、北海道昆虫同好会顧問である青山慎一氏の協力により、世界の昆虫標本約1万2千点を紹介する企画展「世界の昆虫大集合!」を開催しました。内容はチョウ類3,800点、ガ類1,200点、カブトムシやクワガタなどの甲虫類5,200点、ハチ、トンボ、バッタなどの雑虫類1,800点。展示ギャラリーを昆虫たちが埋め尽くしました。

期間中は夏休みの子どもたちから大人まで、連日多数の来場があり、様々な昆虫の色や形、大きさなど、圧倒的な多様性に驚かされていました。何度も会場に足を運んでくれた男性は、集中して多くの昆虫標本を観察したことで、これまでは気付かなかった身近な昆虫を発見することができたり、意識して注意深く見るようになったと仰っていました。

7月21日にはワークショップとして青山氏と北海道昆虫同好会の山内英治氏の指導のもと、小学3～6年生を対象に昆虫採集と標本作成会を行いました。午前中は地元の大山(紋別山)の森に出かけて、子どもたちは虫捕り網を手にチョウを追いかけて、クワガタやカミキリムシなどを捕まえ

たりしました。午後からは博物館に戻って、展翅板と柄付針を使ってチョウの翅を広げたり、虫ピンでクワガタの大アゴや脚を整えたりと標本作りに挑戦しました。

今回の展示やワークショップは、子どもたちにとって良い刺激となったようで、毎日のように昆虫採集の成果を報告してくれたり、自慢の標本を持ってきて見せてくれたりと、身近な昆虫への興味は深まったように感じました。子どもたちには、故郷に色んな昆虫が確かにいて、それぞれが大切な役割を果たしながら生きていることを、いつまでも忘れないでいてほしいですし、このことが故郷を愛する気持ちに繋がってくれたらと願っています。



子どもたちに大人気、クワガタの宝箱

(紋別市立博物館 業務係長 小林健一)





## おかげさまで50周年

昭和38年に道内2番目の動物園として誕生したおびひろ動物園は、今年7月に開園50周年を迎えました。当時の人口は10万人余り、寒冷地域の小さな街に動物園ができるのだろうか。半信半疑の市民が大半だったようです。しかし、動物園建設には市民の熱い思いがありました。昭和35年に有志による「帯広市動物園建設期成会」が結成され、運動の輪が広がりました。この運動にも後押しされながら市は、子供たちに夢と希望を与える動物園の建設を決断したのです。

創設当初は、動物や大型遊具の寄贈が相次ぎ、多くの善意によって整備がすすみました。また、毎年4月の開園前に行われる園内清掃や塗装奉仕活動は、幅広い年齢層のボランティアによって長年継続されています。近年は、学生や市民ボランティアによる小動物とのふれあいイベントが行われています。多くの支援と諸先輩の尽力によって開園50周年を迎えられたことを大変嬉しく思い、感謝の気持ちでいっぱいです。

開園50周年の記念事業として開催したシンポジウムは、大変意味深い内容でした。大阪芸術大学

の若生謙二氏や、猛禽類医学研究所の齊藤慶輔氏など、各分野で活躍するパネラーによる講義では、国内外の動物園事情や北海道の動物園としての役割と可能性、そして市民協働による魅力づくりなど、おびひろ動物園のこれから姿を参加者と一緒に考えることができました。

また、市民から提供された写真を展示した「みんなのおもいで写真展」や報道機関の協力を得て開催した「報道写真展」では、当時を懐かしみ、動物園の歴史を振り返ることもできました。

子供たちへの大きなプレゼントとして誕生したおびひろ動物園を10年後20年後、そして50年後も市民の大切な財産として残し、動物を観察しながら散策できる憩いの場にしたいと思います。



7.14「未来を語るシンポジウム」

(おびひろ動物園 園長 高橋利夫)



## 平成25年度学芸職員部会 8月29・30日様似町で開催

学芸職員部会が様似町会場で、29日は総会・技術研修、30日は今年度に改装したアポイ岳ジオパークビジターセンター見学が行われました。

平成25年度の学芸職員部会調査研究助成事業は1件5万円×3件で実施することになりました。道博協HPの更新、学芸職員部会HP「集まれ！北海道の学芸員」の立ち上げが報告されました。コラムリレーは、2月まで投稿者が決定し、継続して行われることになりました。会員数が9月現在165名となり特に若い年代で増加しています。新会長に沙流川歴史館の森岡健治学芸員が選任され、新たな役員体制が決定しました。

昨年度に引き続き、技術研修会が行われ、「学芸員が講師となり、各館に持ち帰って即実践できる」2つの研修会が行われました。

①自然分野技術研修「石の標本箱をつくる～石を見分け、名前をつける方法」講師：加藤聡美学芸員補（アポイ岳ジオパークビジターセンター）幌満川河口で石を拾い、石に名前をつけ、各館で持ち帰って実践できる石を磨く実地講座を行い、楽しさを伝える内容を目指しました。

②総合技術研修「展示ディスプレイ活用法～身近なもので工夫しよう」講師：内田祐一学芸員（帯広百年記念館）

各館の展示や事業で工夫されている道具、グッズ、映像、ソフトなどを互いに見せ合い、議論し、アイデアを持ち帰る場となりました。

研修中も、懇親会でも研修会について、博物館活動についての活発な意見交換が行われました。技術研修会は、自分の専門分野以外を知ることができるという点からもぜひ継続してほしいと思います。

来年度の開催は、9月下旬～10月上旬に八雲町で行われる予定です。



幌満川での小石拾い（岩石同定の技術研修会）

(様似町アポイ岳ジオパークビジターセンター  
学芸員補 加藤聡美)

青少年科学館  
News

## JPA北海道プラネタリウム ネットワーク研修会 in 北見

2013年7月8日、北網圏北見文化センター（北見市公園町）に、道内はもとより道外からも、総勢約60名のプラネタリウム担当者や関係者が集まり、研修会を開催しました。

北海道プラネタリウムネットワークは、日本プラネタリウム協議会(JPA)の地域ワーキンググループの一つとして、北海道地域のプラネタリウムの活性化と担当スタッフのスキルアップ・交流を目的に活動をしています。

今回は、2011年7月の釧路市こども遊学館での開催に続き第2回目の研修会として、北見の地に集いました。

昨今のプラネタリウム業界では、コンピューターの進化に伴い、美しい全天周映像やコンピュータグラフィックスで、最新の天文学の研究成果を見ることができる優れたコンテンツが多くなってきました。しかし、道内の多くのプラネタリウム施設では、そのコンテンツを利用するためのハードおよびソフトウェア環境の整備が遅れているのが現状です。また、道外ではそのような新しい技術・装置を研究し、知識を共有する場が盛

んに設けられていますが、そういった会に参加し、新しい技術の習得に積極的に取り組んでいる道内施設はあまりなかったように見受けられました。

今回の研修会では、以前に比べ比較的安価に利用することができるようになった全天周投影システムの紹介やソフトウェアのデモ、システムを施設独自の工夫で利用しているノウハウの紹介などが、道内外で取り組んでおられる皆さんから発表されました。参加者の中には、プラネタリウムで出来ることの拡大に驚かされた方も多かったようです。情報交換会でも各施設の状況や新たな取り組みについての話が弾み、終了予定時刻を過ぎても、いつまでも熱い雰囲気には包まれていました。



研修会参加者のみなさん

(釧路市こども遊学館 学芸員 多胡孝一)

道美学芸研  
News

## 開館20周年を迎えた神田日勝 記念美術館 事業紹介と展望

平成5年6月17日に鹿追町の町立の美術館として開館した当館は平成23年に開館20周年を迎え、各種記念事業が開催されています。

特別企画展「室内における人間像～その空間と存在」(6月26日～8月25日)では、神田日勝の代表作『室内風景』の人間像と空間表現に着目し、河原温や鶴岡政男など〈密室の絵画〉と呼ばれる作家の作品との比較を通して考察し、ギャラリー・トークや美術講話、室内楽の夕べや記念講演など関連事業も開催しました。

6月23日には20年ぶりにNHKの日曜美術館で神田日勝が特集として紹介され、その影響で関連書籍が数多く売れ、遠方からの問い合わせも増えました。8月27日には入館者50万人を達成し、ある意味で節目となる出来事が重なりました。

8月25日の馬耕忌(神田日勝の命日に近い日曜日に画業の顕彰を目的に開催)では、特別企画展の記念講演と館長鼎談を開催し、同日開館20周年記念式も行いました。

10月には、全国の小中学生対象の第19回馬の絵作品展、神田日勝の『ゴミ箱』をテーマとする絵

画感想文コンクール、11月には、絵本作家の田島征三の展覧会も開催します。

今年度の事業は、運営協議会や友の会などのメンバーから構成された開館20周年事業実行委員会を組織して、昨年度から準備を進めてきました。美術館職員だけではなく、委員会の方々も今年は特別な思い入れを感じる事がたびたびあるようで、当館が町民有志によって開館の準備が開始されたことを思い起こすと、地域に根ざした事業を着実に展開し、住民を巻き込んでゆくことが益々重要になってきていると思います。



特別企画展のギャラリー・トークの様子

(神田日勝記念美術館 学芸員 釜澤恵子)



### 館・園の主な展覧会と普及事業 (平成25年11月～平成26年3月の行事予定)

#### 石狩

##### ●北海道立近代美術館

11/23～1/19 所蔵品展＋特別展示 「好太郎と節子－素描するよろこび」  
(会場：三岸好太郎美術館)

12/7～1/19 特別展 冬のワンダー☆  
ミュージアム2014

12/7～3/23 これくしょん・ぎやらりい  
北のやきもの史－江上コレク  
ションを中心に

12/7～3/23 これくしょん・ぎやらりい  
田園讃歌－仏蘭西に渡った画家  
たち

1/25～3/27 所蔵品展 音楽のある美術  
館5 (会場：三岸好太郎美術館)

2/1～3/23 特別展 栗谷川健一展－北  
海道をデザインした男

##### ●北海道立文学館 (011-511-7655)

11/1～12/8 特別展 ほっかいどうの短  
歌100首

11/2 わくわくこどもランド 秋のスペ  
シャル人形劇

11/1 ロビーコンサート 音楽の花束～  
いにしへの響き・心のうた

11/10 文芸講演会 文字・活字文化の日  
関連講演会「斎藤瀏・斎藤史の旭  
川時代」

11/17 文芸対談 記憶の向こうにある  
北海道

11/23 文芸講演会 北海道を詠う

12/8 わくわくこどもランド 手作り教  
室・ツリーをつくろう！

12/14 わくわくこどもランド クリス  
マススペシャル「ペープシアター・  
ボードビルなど」

2/1 わくわくこどもランド 絵本の読  
み聞かせ、紙芝居など

2/8～3/23 特別展 荒巻義雄の世界－  
都市型宇宙船ニュー・ユートピア・  
シティーにむかって

2/8 文芸講演会 シティ・マスター荒巻  
の就任演説／ニュー・ユートピア・  
シティーへのいざない

3/1 わくわくこどもランド 絵本の読  
み聞かせ、紙芝居など

#### 渡島

##### ●市立函館博物館 (0138-23-5480)

9/21～11/3 企画展「新収蔵資料展」

10/20 普及事業 学芸員こぼれ話2「函  
館にくらしたアイヌの人々」

11/9 普及事業 わくわく科学教室 親  
子で「イカを科学する」(会場：函  
館市女性センター)

1/12 普及事業 学芸員こぼれ話3「小島  
倉太郎の奇妙な冒険」

1/18 普及事業 わくわく科学教室  
「もしも原子が見えたなら」

##### ●函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)

11/10 検定「第3回 THEじょうもん検定」

1/19 定期講座「冬の縄文染め」

2/16 報告会「遺跡調査報告会～2013年  
度の調査から～」

##### ●八雲町郷土資料館 (0137-63-3131)

11/19～1/26 企画展 ヲコツナイに入  
植した斗南藩士

#### 後志

##### ●小樽市総合博物館 (0134-33-2523)

10/5～12/6 小さな企画展 幕末小樽の  
アイヌ社会(会場：運河館)

10/11～11/25 企画展 ロシアが見たア  
イヌ文化 ロシア科学アカデミー  
のコレクションより (会場：本館)

11/3 講演会 ロシアが見たアイヌ文化  
ロシア科学アカデミーのコレク  
ションより の楽しみ方 (会場：  
本館)

##### ●西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

10/18～3/9 展覧会 開館14周年記念展  
「西村計雄 和菓子色の世界」

1/4 講座 お正月ダヨ！おやかでてづ  
くりたこあげ大会

2/14～3/16 公募展 第10回 箱絵展

#### 上川

##### ●北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

11/16～11/24 特別展 創立50周年記念  
書創社会員展

11/29～12/15 特別展 創立60周年記念  
北海道銀行コレクション

12/21～2/11 特別展 生誕110周年 山  
口正城展

2/16～4/6 特別展 無言館所蔵作品に  
よる 戦没画学生〈生命の絵〉展

11/16～6/11 所蔵品展 「間」－あいだ  
の世界

##### ●士別市立博物館 (0165-22-3320)

10/14～11/3 テーマ展 「秋のキノコ  
展」

11/3～24 企画展 「地球環境の今～北  
海道から北極まで」

12/1～22 テーマ展 「和泉雅子写真  
展」

12/21 講座 「クリスマスレクチャー」

1/8 講座 「お正月体験」

1/25 講座 「雪と氷の実験」

2/1 講座 「昔の手仕事」

2/9～3/9 テーマ展 「桃の節句展～ひ  
な人形展」

2/22 夜間開館・コンサート 「雪あかり  
ミュージアム」

3/1 講座 「冬の自然観察会」

3/22 講座 「宝石みがき」

3/23～4/13 テーマ展 「幻の本画 牧月  
香展Ⅱ」

##### ●名寄市北国博物館 (01654-3-2575)

10/19～11/3 企画展「堀田清写真展～植  
物エネルギーびふか松山湿原」

11/8～11/24 企画展「懐かしの学び舎  
中学・高校・大学編」

11/29～12/15 巡回展「北海道開拓記念  
館から北海道博物館へ」

11/30・12/1 講座 「アイヌ語と口承文  
芸の世界～北海道東部を中心に」、  
「アイヌ民族の狩りとわな」

12/14～1/26 イベント 冬の室内遊び  
展

12/21～1/26 特別展「九度山と道北の  
山々」

1/9～10 冬休み体験事業 森のたんけ  
ん隊2014冬

1/12 冬休み体験事業 冬休みこども  
理科実験教室

2/22 コンサート 「雪あかりコンサ  
ート2014」

2/27～3/5 企画展 ひな人形展

3/8 体験教室 「雪と遊ぼう！」

3/20～3/30 企画展 名寄市北国博物館  
平成25年度新着資料展

#### 網走

##### ●美幌博物館 (0152-72-2160)

11/3～24 企画展 交通安全ポスター作  
文展

12/15～1/26 企画展 寄贈美術資料展

2/8～3/2 企画展 冬季作品展

3/23～6/1 企画展 よみがえれ！美幌川

## ●北海道立北方民族博物館

(0152-45-3888)

- 11/1~11/10 オホーツクシリーズ4  
キッズ・アート・イン・オホーツク
- 11/16~12/1 オホーツクシリーズ5 北の  
の状況から
- 11/30 はくぶつかんクラブ カラフルま  
が玉づくり
- 12/7 はくぶつかんクラブ 北の文様カ  
レンダー
- 1/7~1/26 ロビー展 世界の楽しいけ  
ん玉
- 1/7~1/26 ロビー展 温暖化するシベ  
リアの自然と人
- 1/11 はくぶつかんクラブ フェルトの  
ゲル型小物入れ
- 1/11 講座 トナカイ牧畜民の食卓
- 1/18 講習会 けん玉検定にチャレンジ
- 1/18 講座 世界と本のけん玉
- 1/26 講座 東シベリア永久凍土域の景  
観と水環境
- 2/1~4/6 企画展 映像にみるカムチャ  
ツカ半島の現在
- 2/1 講座 カムチャツカ先住民の狩猟  
と漁労
- 2/9 はくぶつかんクラブ 雪あそび
- 2/22 講座 カムチャツカ先住民の歌と  
踊り・儀礼
- 2/28 講習会 とんぼ玉づくり
- 3/1 講習会 とんぼ玉づくり
- 3/8 アイヌ文化講習会 シカ肉料理
- 3/15 講座 暮らしの中の北方言語
- 3/16 講習会 フェルトのアザラシづく  
り

## 胆振

## ●苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)

- 10/12~11/24 苫小牧港開港50周年記念  
「夢を形に~砂浜と原野にいどん  
だ時代」
- 12/10~12/23 第7回北海道現代具象画  
展
- 1/11~2/16 子どものための美術展 も  
のがたりをおしえて! (仮)
- 3/1~3/30 おはなしミュージアム
- 3/1~3/30 手で観るミュージアム 自  
然と造形の美学(仮)

## ●室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

- 11/17 とんでん館寺子屋教室「干支風づ

くり」体験学習会

12/8 とんでん館寺子屋教室「しめ縄づ  
くり」体験学習会12/15 とんでん館寺子屋教室「石臼もち  
つき」体験学習会

## 十勝

## ●帯広百年記念館 (0155-24-5352)

- 11/10 夜学講座 版画講座「年賀状を作  
ろう」
- 11/16 博物館講座 サハリンの先史文  
化ととち
- 11/13~15 夜学講座「博物館で資料を読  
む」
- 11/30・12/1 体験教室 はく製作り教室
- 12/21 博物館講座 大地が語る十勝の  
自然史
- 12/23 体験教室 じょうもん人と腕く  
らべ~勾玉づくり~
- 1/10~26 第32回郷土美術展
- 1/16~2/2 ロビー展 ゲロリからはじ  
まるスケートの歩み
- 1/18 博物館講座 十勝アイヌの川漁
- 2/1 博物館講座 アイヌ民具の見方
- 2/7~3/2 ロビー展 ひな人形展
- 2/15 博物館講座 神話的英雄としての  
ワタリガラス
- 3/15 博物館講座 大昔のとち
- 北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)
- 11/22~3/30 コレクション・ギャラリー  
北の風景
- 11/22~2/2 特別展 道東アートファ  
イル2013 in the LIGHT/in the SHADOW
- 2/11~3/30 特別展 帯広美術館コレク  
ション選 十勝の美術100年

## 釧路

## ●釧路市子ども遊学館 (0154-32-0122)

- 11/3 企画展 サイエンス屋台村
- 11/30 企画展 クリスマスツリー点灯式
- 12/14・15 企画展 クリスマスイベント  
「クリスタル★クリスマス」
- 1/4~15 企画展 冬休みイベント
- 1/12 企画展 ジオ・フェスティバル
- 2/8・9 企画展 とり+かえっこ
- 3/1・2 ワークショップ ひなまつりス  
ペシャル
- 3/25~ 企画展 春休みイベント

## ●北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

- 10/3~11/27 特別展 重要文化財「正行

寺」よみがえった襖絵展

10/19 ファミリーイベント フォーミ  
ング・シアター2013「沙流舞台」10/26 アートシネマ館2013「アメリカ  
交響楽」

10/27 よみがえった襖絵展 講演会

11/4 ファミリーイベント「ジュニア・  
アートスクール2013」11/13・20・27 一般向けワークショップ  
大人の家庭科&お気楽アート教  
室11/23 アートシネマ館2013「オーケ  
ストラの少女」12/6~2/5 特別展 ウルトラマン創世  
紀展-ウルトラQ誕生からウルト  
ラマン80へ-12/21 アートシネマ館2013「スイ  
ング・ホテル」12/21~1/15 ファミリーイベント「冬  
のキッズ・アトリエ」

1/13 ウルトラマン創世紀展 講演会

1/18 アートシネマ館2013「別れの曲」

2/26~3/9 特別展 文化庁メディア芸  
術祭 釧路展3/15 アートシネマ館2013「二人でお  
茶を」

## 根室

●標津サーモン科学館〈サケの水族館〉  
(0153-82-1141)11/3 シロザケの産卵行動観察会(会場:  
科学館、忠類川)

11/4 シロザケの人工授精体験学習

## ●根室市歴史と自然の資料館

(0153-25-3661)

10/16~11/13 展示改修のため休館とな  
ります